

推薦図書から学ぶ

当事務所の推薦図書の中に『小倉昌男経営学』（小倉昌男著 日経 BP社）があります

読み進めると、P37に「経営とは自分の頭で考えるもの、その考えるという姿勢が大切である」とあります。

自分の頭だけで独創的なこと考えるには限界があります。「学ぶことは真似ること」と言いますから、まず良いお手本を見つけたら、とにかく真似をしてみましょう。

敏腕経営者のいる会社は、必ず人と違うことをしています。「差別化」と言いますが、異なる事例の成功事業を真似て、自社に応用することが大事です。そのために同じく推薦図書の一つである『ドトールコーヒー「勝つか死ぬか」の創業記』（鳥羽博道著 日経ビジネス人文庫）に以下の記述があります。

同じ旅行でも、ただ単に行くのと、明確な目的をもって行くのとではものの見え方、感じ方がまるで違って来る。関心があればこそ見えてくる。関心がなければ見ているようで実は何も見えていないのだ。目的意識があるから、関心が高いから、その光景をいつまでも心の中に鮮明に、克明に留めておくことができる。(P82)

目的意識を持って見て、頭の中を整理するために、「ブルー・オーシャン戦略」を活用しましょう。「アクション・マトリックス」にそれぞれの項目について記入し、そして自分の事業にどう応用するかを「自分の頭で考える」のです。戦略の詳細については、『ブルー・オーシャン戦略』（W・チャン・キム＋レネ・モボルニュ 有賀裕子訳 講談社）をご参照ください。

以上のヒントについては、経営者が自ら出版した本や、「プロフェッショナル仕事の流儀」（NHK）、「ガイアの夜明け」、「カンブリア宮殿」（テレビ東京）、「がちりマンデー」（TBS）等のテレビ番組、その他新聞・インターネット等を利用して、注意深く探していきましょう。

この3冊のほかに思考する為に必要な基礎体力を鍛える『ランチェスター弱者必勝の戦略』（竹田陽一著 ビジネス社）を熟読することをお奨めいたします。

参考文献

- 『小倉昌男経営学』（小倉昌男著 日経BP社）
- 『ドトールコーヒー「勝つか死ぬか」の創業記』（鳥羽博道著 日経ビジネス人文庫）
- 『ランチェスター弱者必勝の戦略』（竹田陽一著 ビジネス社）
- 『ブルー・オーシャン戦略』（W・チャン・キム＋レネ・モボルニュ 有賀裕子訳 講談社）